

平成28年度 全国学力・学習状況調査 小坪小学校の結果の分析及び考察

1. 教科別結果

平均正答率 (%)	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
小坪小	69.5	56.5	79.4	49.8
神奈川県	70.3	58.2	76.6	47.3
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

課題 (●)・取組 (☆)

《国語 A (知識)》

「目的に応じて、図と表とを関係付けて読む」問題の正答率は、全国平均より5ポイント近く上回っており、ほとんどの児童が正確に読むことができた。読むことに関する知識はある程度定着していると言える。他の観点についても、全国平均と同等かそれ以上の正答率であった。

●短答式問題への回答（漢字の書き、ローマ字の読み書き）。

☆言葉への関心を高められるよう、新出漢字の指導を丁寧に行い、なじみの薄い言語や使用頻度の低い漢字などは、調べる機会を確保するようにする。ローマ字の学習に習得には、外国語活動との関連や、コンピュータ使用との関連の中で触れる機会を設ける。

《国語 B (活用)》

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3観点に関する問題が出題された。「書くこと」の観点に関する問題は、全国平均を上回っていた。特に「グラフを基に、分かったことを的確に書く」問題が全国平均より上回っており、資料を読み、分かったことを書くことに慣れている児童が多いと言える。

●質問の意図を捉えること。

☆文章や発言には、その発信者の意図があることを知らせ、文章だけでなく、「なぜ」そのような表現をしているかについて考えさせる授業展開を工夫している。

●目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。

☆朝の読書の時間を確保するようにしている。国語科だけでなく、総合的な学習の時間においても、目的に応じて、複数の資料を目にするよう、学校図書館を利用するようにしている。

課題 (●)・取組 (☆)

《算数 A (知識)》

「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域で、全国及び県平均を上回っていた。特に「数の大小関係を理解している」は全国より10ポイント以上高く、「不等号を理解している」については、全員正答であった。算数の時間に、数の大小関係を把握することや、小数点の位置を確認することを繰り返し投げかけ、数の感覚を磨く指導を積み重ねてきた結果であると考えられる。

●直方体における面と面の位置関係を理解している。

☆算数に苦手意識をもつ児童には、授業展開の中で、具体物を操作する活動を取り入れたり、視聴覚機器を活用したりして、図形の学習における「分かる、楽しい」授業づくりを心がけている。

《算数 B (活用)》

「量と測定」「図形」「数量関係」の領域で、全国平均を上回っていた。特に、「単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる」は全国平均を10ポイント以上、上回る結果だった。単位量当たりの大きさの学習において、導入を工夫して意欲的に問題解決に取り組めるようにしたり、表す量の意味を話し合いの中で丁寧に確認したりすることを積み重ねてきた結果であると考えられる。

●縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述できる。

☆「数と計算」の学習においても、式、言葉、図、数直線などを使って、考えの説明を記述できるような時間を確保するようにしている。

2. 生活習慣・学習習慣 質問紙調査結果

生活習慣・学習習慣調査結果	小坪	神奈川県（公立）	全国（公立）
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	71.6	73.1	71.9
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	32.8	24.4	25.3
自分には、よいところがある	26.9	34.7	36.2
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	52.2	54.7	56.3
将来の夢や目標をもっている	64.2	66.6	68.6
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	22.4	25.8	26.7
学校のきまりを守っている	35.8	38.4	42.9
友達との約束を守っている	61.2	66.6	68.9
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	46.3	43.9	45.2

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と感じる児童は7割で、全国平均とほぼかわらない結果となった。さらに、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と自信をもって答えた児童が3割で、全国平均を上回った。高学年となった自覚を促し、運動会などの行事を児童主体で創っていくことを大切にしてきた成果が、ある程度出ているといえるのではないだろうか。また、日ごろから、「失敗に対して寛容であること」、「自分から行動を起こすこと」を大切にする指導を心がけている。今後も継続していきたい点である。

その一方で、「学校のきまりを守っている」、「友達との約束を守っている」と答えた児童が、全国平均よりも、大きく下回っている点が課題である。きまりは、誰もが安心・安全な学校生活を送るためであることを機会があるごとに伝え、保護者の方ともいっしょに考え、見守りながら改善していけるようにしなければならないと考える。児童の規範意識をより高めていきたい。

「自分にはよいところがある」と自信をもって答えた児童も3割弱と全国平均より低い。「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」と感じている児童は全国平均より多く、普通の授業の中で、一人ひとりの意見のよさが生きるように心がけているが、十分ではなかったといえる。「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」児童も、全国平均より少ないことから、より一層、児童どうしがお互いの話や思いに耳を傾け合えるよう、「聴く」指導に力をいれていきたい。丁寧な「聴き合い」から、お互いが、安心して思いを伝え合い、大切に話し合う雰囲気醸成することで、一人ひとりの自己肯定感を高めていければと考える。

「将来の夢や目標をもっている」、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童が低いのも気になる点だ。自分の目標に向かって、自分で自分をコントロールする経験も、児童の自己肯定感につながると考える。また、先述の規範意識も、自信をもって行動していくための土台となる。めあてをもって行動を自己決定していくこと、行動を自ら律することの大切さを繰り返し伝えていくとともに、折にふれて、将来の事、自分自身の事について考えさせる機会もつくってきたい。